

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	ザンビア共和国コッパーベルト州マサイティ郡およびムポングウェ郡にて、妊産婦・女性による質の良い妊産婦・新生児保健サービス利用へのアクセスの増加により、MDGs5（妊産婦の健康の改善）が達成される。
(2) 事業の必要性（背景）	ザンビア共和国は南部アフリカ開発共同体（SADC）、東南部アフリカ市場共同体（COMESA）の主要メンバーであり、地域の政治経済的安定に貢献しているものの、経済発展に必要な道路や電力等の経済インフラ、および、医療・保健や教育等の社会インフラは未発達である。とりわけ地方の農村部の貧困率は高い。国連ミレニアム開発目標などの保健目標の進捗も遅れている(1)。 プロジェクト対象地区であるコッパーベルト州マサイティ郡とムポングウェ郡では母子保健及びリプロダクティブヘルス・サービスを含む保健サービスが不足しており、それにより多くの課題が山積みしている。最大の課題は妊娠・出産時の緊急搬送先としてのレファラル病院までの距離が遠いことである。マサイティ郡については、隣接するンドラ市にあるレファラル州立病院までの5つの都市からの平均距離は57キロもある(2)。 また、ムポングウェ郡はレファラル病院はあるものの、5つの都市からの平均距離は43キロである。このため、自宅で出産したり、合併症が起きても保健施設まで間に合わなかったり、緊急搬送できなかったケースが多くある。 また、保健人材、とりわけ訓練を受けた助産師の数が足りず、マサイティ郡では人口約14万人に対して12人（17保健施設に配属）、ムポングウェ郡では人口約10万人に対して24人（16保健施設に5人配属、19人は2病院に配属）である。村の保健施設に着いても、医療従事者の不足、出産に必要な基礎的な医療機材や医薬品の不足、保健医療従事者の知識や技術の不足が課題として挙げられる。また、保健医療従事者の妊産婦への対応が親切でなかったり配慮が欠けていたりすることから、保健施設でのサービスの質が低いことなども挙げられる。 このような状況下、妊産婦が保健施設を利用する時は限られており、保健施設での分娩割合は、本事業対象地区において平均31.5%と、ザンビア全体の保健施設での分娩割合48%（ザンビア保健統計調査2007年）より低い。また、十分なセクシュアル・リプロダクティブヘルス（SRH）サービスや適切な知識・情報が不足しているために、住民は時として地域の伝統的助産師や祈祷師に頼り健康リスクをさらに高めている。さらに、若者への働きかけが不十分で、保健施設での若者へのサービス受け入れ体制も不十分なものもあり、15歳から19歳までの十代の妊娠や望まない妊娠や出産も課題である。 ジョイセフは、2011年よりマサイティ郡フィワレ地区において、現地協力団体「ザンビア家族計画協会（Planned Parenthood Association of Zambia:PPAZ）」とともに保健人材の育成と保健施設改善などの活動に取り組んできた(3)。この経験と実績を基に、本プロジェクトでは妊産婦に対する質の高い保健サービスの提供と、地域住民や思春期の青少年少女に対する、妊娠・出産・リプロダクティブ・ヘルス・女性の権利などを中心とした適切な情報の提供により、妊産婦ケア、若年結婚や安全でない中絶の予防に取り組んでいく。 本プロジェクトは、MDGs5の目標はもちろんのこと、日本政府が推進する「人間の安全保障」及び「国際保健政策2011－2015」の目標の一つ「妊産婦と新生児の死亡率削減」に貢献するものである。また、官民のパートナーとともに、コミュニティと施設をつなぎ、産前から乳幼児までの継続ケアの実施により母子の命を救う、日本政府の母子支援パッケージ「EMBRACE」にも資する。更に、本プロジェクトの目的と活動内容は「持続的な経済成長を支える社会基盤の整備」を重点分野（中目標）に掲げる外務省の「対ザンビア共和国・国別援助方針」とも一致する。 2015年はMDGsの最終年であるとともに、2015年以降の新たな国際開発枠組が提示さ

	れる年でもある。今後、先進国及び途上国の双方で高齢化が進み、感染症や慢性疾患による医療費の増大が見込まれる中、予防を中心とした低コストの健康対策はますます必要となる。本プロジェクトは日本国外務省、ザンビア保健省、ザンビア NGO 及び日本 NGO 間の連携に基づいた官民連携モデルとなりうる。(添付 1：事業の必要性補足)
(3) 事業内容	■全体 妊産婦・新生児保健(MNCH)に焦点を当てた、質の良い保健サービスの利用へのアクセスの増加を目的に、保健センター母子保健棟の建設とマタニティハウス(出産待機ハウス)およびユースセンターを3地区(マサイティ郡ムタバ、ムポングウェ郡カルウェオ、ミカタ)に建設し、総合的に保健サービスを提供する拠点(ワンストップサービスサイト)とし、医療従事者の研修等を通じて質の良い保健サービスを提供する。また、ワンストップサービスサイト(3地区)を含めた10地区(マサイティ郡の5地区及びムポングウェ郡の5地区)の母子保健推進員(Safe Motherhood Action Group:SMAG)及び保健医療従事者を育成し、コミュニティレベルでの啓発教育活動を強化し、産前産後健診や施設での出産の促進、望まない妊娠を予防する。(添付2：地図ザンビア国、マサイティ郡、ムポングウェ郡、添付3：ワンストップサービス概念図、添付4：研修計画) ■1 年次 (1) プロジェクト運営体制の整備 プロジェクト計画会議・マタニティハウス設計企画ワークショップの開催、10地区にてプロジェクト運営委員会を設置しオリエンテーションを行う。 (2) 妊産婦・新生児保健に関する知識と情報の啓発教育 2-1 母子保健推進員の養成研修 (ムポングウェ郡：5地区にて100名)(*マサイティ郡は母子保健推進員養成済) 2-2 保健医療従事者の「母子保健推進員スーパーバイザー及びクライアントフレンドリーサービス研修」(10地区の保健医療従事者20名) 2-3 保健医療従事者および母子保健推進員(SMAG)を対象とした「行動変容のためのコミュニケーション技能強化研修」(保健医療従事者20名及び母子保健推進員246名(マサイティ郡140名、ムポングウェ郡100名)) 視覚的に妊娠・出産の仕組みがわかる教材(マギーエプロン)などを用い、効果的な啓発教育活動を通して意識や行動を変えていくための研修を行う。 2-5 計画に基づいた啓発教育活動の実施 「行動変容のためのコミュニケーション技能強化研修」にて啓発活動計画を策定し、実施する。 2-6 効果的な IEC/BCC 教材制作と配布(妊娠・出産及び家族計画についてのリーフレットを作成。分娩計画(バースプラン)等の現地語(ベンバ語)翻訳と配布を行う。 (3) 保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質の向上 ワンストップサービスサイトとしてマサイティ郡ムタバ保健センターを拠点に妊産婦・新生児保健サービスや情報提供を行える場として展開する。多くの近隣住民がコンゴ共和国、または他郡の境界を越えて利用する施設であるが、妊産婦・新生児保健サービスを1箇所に集中化させ、必要なサービスや情報の拠点としてより活性化させる。 3-1 母子保健棟の建築・改築及び必要な医療機材の供与 マサイティ郡ムタバ保健センター母子保健棟の建設を行い、出産に必要な医療機材の供与により、より質の良い出産の設備を整える。 3-4 マタニティハウス・ユースセンター・助産師の住居の建設及び参加型ペインティングワークショップの開催 ムタバ保健センターの隣に出産予定日2週間前から滞在可能なマタニティハウスを

	建設する。ユースセンターでは、10～20 代の若者を対象にスポーツやアートなどエンターエデュケーション（エンターテインメント・エデュケーション）としての啓発教育活動を行い、若者が集い、性に関するディスカッションや相談が出来る場を作り、保健施設との連携をとり SRH サービスを提供する体制を整える。また、地域と保健施設を繋ぐ継続ケアの核となる助産師が農村地区にて定着するための住居を整備する。 (4) 継続ケアのための保健施設と地域間の連携体制整備 母子保健推進員（SMAG）と保健医療従事者による定例会合にて活動状況の把握を行う。また、妊婦の分娩計画の現地語版を効果的に活用し、連携体制を整備する。 ■2 年次 (1) 妊産婦・新生児保健に関する知識と情報の啓発教育 保健医療従事者を対象にした「母子保健推進員スーパーバイザー及びクライアントフレンドリーサービス研修」、保健医療従事者および母子保健推進員対象「行動変容のためのコミュニケーション技能強化研修」について 1 年次の活動進捗状況とニーズを鑑み、研修内容を検討する。また、ユースを担当する SMAG を対象にした「ピア（仲間）教育/リーダー研修」を実施し、思春期層への取り組みを強化する。 (2) 保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質の向上 ムポングウェ郡カルウェオ保健センターをワンストップサービスサイトし、母子保健棟の建設、出産に必要な医療機材の供与、マタニティハウス、ユースセンター、助産師の住居棟の建設を行い、より質の良い出産の設備を整える。母子保健棟の妊産婦・新生児保健サービスの質に関する患者インタビュー及びマタニティハウス利用者インタビューを行う。 (3) 継続ケアのための保健施設と地域間の連携体制整備 保健医療従事者、母子保健推進員と、地域の連携による妊産婦・新生児保健サービス利用促進強化のためのシステム作りに関するワークショップを行い、地域ネットワークの連携による情報の伝達・共有の仕組みを構築し継続ケアの体制を強化する。 ■3 年次 (1) プロジェクト運営体制の整備 最終調査を実施し、最終セミナー及びマタニティハウス設計ワークショップを開催し、プロジェクト経験をシェアする。 (2) 妊産婦・新生児保健に関する知識と情報の啓発教育 草の根での啓発教育活動を継続的に実施し、保健施設との連携強化により、妊産婦・新生児保健や SRH サービスの利用に繋げる。 (3) 保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質の向上 ムポングウェ郡ミカタ保健センター母子保健棟をワンストップサービスサイトし、母子保健棟の改築、出産に必要な医療機材の供与、マタニティハウス、ユースセンター、助産師の住居棟の建設を行い、より質の良い出産の設備を整える。母子保健棟の妊産婦・新生児保健サービスの質に関する患者インタビュー及びマタニティハウス利用者インタビューを行う。 (4) 継続ケアのための保健施設と地域間の連携体制整備 保健医療従事者、母子保健推進員と、地域の連携による妊産婦・新生児保健サービス利用促進強化のためのシステム作りに関するワークショップを行い、サステナビリティ（持続発展）に向けた地域ネットワーク連携による継続ケアの体制を強化する。
(4) 持続可能性	ザンビアの妊産婦・新生児保健サービスの向上を推進するために、ザンビア保健省及びコミュニティ開発母子福祉省、州・郡保健局、PPAZ と各関係機関の役割を明確にし、密に連携して事業を計画、実施、モニタリングを行い、草の根保健活動を支える地域ネット

	トワークの構築・強化を行う。また、マタニティハウスやユースセンターの運営は郡保健局の管理のもと行われ、事業終了後に向け、各施設の運営管理及び母子保健推進員（SMAG）による活動の継続性のための計画策定を行い、事業終了後の継続と自立発展を図る。また、企業連携との取り組みも視野に入れ、活動の継続に向けた仕組みを検討する。															
（５）期待される成果と成果を測る指標	事業対象裨益者人口（推定）： <table><thead><tr><th></th><th>マサイティ郡</th><th>ムポングウェ郡</th></tr></thead><tbody><tr><td>人口</td><td>140,452 人</td><td>105,000 人</td></tr><tr><td>0～24 歳</td><td>68,541 人</td><td>51,240 人</td></tr><tr><td>15～24 歳</td><td>21,090 人</td><td>21,488 人</td></tr><tr><td>出産可能年齢の女性</td><td>30,899 人</td><td>23,100 人</td></tr></tbody></table> 上位目標 ザンビア共和国コッパーベルト州マサイティ郡およびムポングウェ郡にて、妊産婦・女性による質の良い妊産婦・新生児保健サービス利用へのアクセスの増加により、MDGs5（妊産婦の健康の改善）が達成される。 ➤ 保健施設にて出産する妊婦の数が平均 31.5%(2013 年)から平均 46.5%(2017 年)に増加する ➤ 産後 7 日以内に産後ケアを受ける女性の数が平均 135 人(2013 年)から平均 183 人(2017 年)以上に増加する ➤ 家族計画を実行する人の数が平均 250 人(2013 年)から平均 370 人(2017 年)に増加する 成果①プロジェクト運営体制が整う 各地区にプロジェクト運営委員会が設置され、年 2 回委員会が開催され、モニタリングが行われる 成果②家族計画、産前・出産・産後ケアを含む正しい知識と情報が地域住民に届く 2.1 家族計画・産前・出産・産後ケア・施設分娩の重要性を含めた SRH に関する知識や情報を得た住民の数が年間 4 万人以上になる 2.2 望まない妊娠の予防や性感染症の知識が知識や情報を得た若者(15 歳～24 歳)の数が年間 1 万人以上になる 成果③プロジェクト地区における保健施設で提供する妊産婦・新生児保健サービスの質が向上する 3.1 保健医療従事者のクライアントフレンドリーサービスについて、研修後のテスト結果が80 点以上の人が 9 割を超える 3.2 保健施設で母子保健サービスを利用した女性の満足度が84%(基礎調査)から 94%以上(2017 年)に向上する 成果④継続ケアのための保健施設と地域の間の連携体制が整う 4.1 母子保健推進員（SMAG）が産前産後の女性および新生児の健康状態について毎月 SMAG がとりまとめ、保健医療従事者へ報告する。 4.2 母子保健推進員との連携により分娩計画(Birth Plan)を活用する妊婦が平均 71%(基礎調査)から平均 90%(2017 年)に増加する		マサイティ郡	ムポングウェ郡	人口	140,452 人	105,000 人	0～24 歳	68,541 人	51,240 人	15～24 歳	21,090 人	21,488 人	出産可能年齢の女性	30,899 人	23,100 人
	マサイティ郡	ムポングウェ郡														
人口	140,452 人	105,000 人														
0～24 歳	68,541 人	51,240 人														
15～24 歳	21,090 人	21,488 人														
出産可能年齢の女性	30,899 人	23,100 人														